特集

交流活動で育てよう

子どもたちの心

「鬼は外、福は内」

幼稚園児と小学生の混合パワーで、鬼たちはどこかへ退散してしまいました・・・とさ

21世紀を担う子どもたちが、たくましさと豊かな心を身につけていくことを願って、本市では学校と保護者、地域が連携して、さまざまな活動に取り組んでいます。

これまでに本紙では、小学校の空き教室を活用して地域の人たちと交流する「ふれあいルーム」の話題や、地域の人たちの協力を受けながら、子どもたちが合宿生活をおくる「通学合宿」、小学生が地域の人と連携しながら生ごみを利用して元気な野菜を作る「生ごみリサイクル活動」などをご紹介してきました。

今回は、小学生と幼稚園児がお互いを思いやり、感謝の気持ちを持って交流している「幼小交流会」と、中学生が地域住民の一員として活動している「地区生徒会」の様子をご紹介します。

また、吉井町と世知原町の合併を機に、小・中学校の編入や統合の歴史を振り返ってみます。

写真右　三川内小学校5年生の手作りケーキを前に、三川内幼稚園の園児も大喜び

三川内幼稚園と三川内小学校の「幼小交流会」

三川内幼稚園の園児が楽しみにしている行事の一つに「幼小交流会」があります。

同幼稚園の平川久美子教諭によると、昨年度は園児23人と三川内小学校の5年生38人が、同園でひと月に1～2回交流しました。

ごちそうを前に会話も弾む給食時間

季節感を盛り込んだ交流会

昨年12月の交流会では、園児のお遊戯や5年生の笛の演奏のほか、紙芝居クイズ、クリスマスソングに合わせたダンスもありました。

そして、この日の給食には、5年生の手作りケーキとクッキーが添えられました。

「スポンジはきのう焼いて、きょうの1、2校時目に生クリームや果物で飾り付けをしました」と5年生。これまでに何度もスポンジ作りを練習してきたというだけあって、おいしそうなケーキが各班の食卓に並びました。

心と心をつなぐ交流会

2月3日の交流会は豆まき。三川内幼稚園の香田尚美教諭が「大豆からできる食品はどんなもの?」と質問すると、「豆腐、きな粉、みそ、納豆」と元気な答えが返ってきました。「もやし」も大豆の仲間であることを教わった子どもたちは、意外だったという表情でうなずいていました。

園児が画用紙で作った升を各自抱えて、それぞれの心の中にいる「泣き虫鬼」や「けんか鬼」、「忘れ物鬼」、「いじめ鬼」を「鬼は外、福は内」と退治しました。

豆まきの後、5年生が「校内の畑で育てた落花生が収穫時期を迎えるころ、畑の虫たちに実を食べられてしまった」というエピソードを披露すると、園児たちは残念そうな表情を見せていました。一方、「大豆は順調に育ち、採れた大豆で豆腐を作った」という話には、感心した様子で聞き入っていました。

平川教諭は、「幼小交流会は、数年来続けている行事で、子どもたちの豊かな心情を養うという点からみてもその効果は大きいと思います。年度当初は、お互いに遠慮があってぎこちなかった子どもたちですが、回を重ねるごとに信頼関係が築かれてきて、自然になじんできました」と、子どもたちの成長ぶりに目を細めていました。

写真上　クリスマスソングにのって楽しくダンス

写真左　「さて答えは何番でしょうか?」と紙芝居でクイズ